斎田に関わる諸儀式

お田植式に関わっては多くの儀式・式典がある。最初に行われたのは「祓式」と「播種式」である。

祓式

祓式は１９１５（大正４）年４月２０日、斎田地で挙行された。斎主神主知立神社社司、祓主白山神社社司の奉仕のもとでとりおこなわれた。

斎田と諸行事の安全と成功を祈願するこの式典には、奉耕正装の青年８０余名や白の上着に緋の袴を着けた早乙女２０名、その他に村内在郷軍人・青年会員・小学校生徒・農林学校生や一般村民等が列席して四辺を埋めていた。

来賓として農務局長・農商務省技師・香川県理事官・愛知県知事・旧岡崎藩主・県会議員など多くの要職者を迎えたが正に盛儀であった。

当日の気象であるが———矢来の清めの雨は早朝に降り止み、陽光薄雲の間を漏れて崇厳の気が四囲に満ち、雨後の緑洗うが如く斎垣の注連忌竹に吹き渡る春風にゆらいで長閑なり———とある。

播種式

式典は４月２３日、奉耕者男１３人女８人の揃う中で中島村社八幡社の社前で行われた。

社前での森厳な祓を受け、その後斎田地に向かった。午前６時に始まった式典は９時半に終了し播種を終っている。この播種式には斎田所有者を始め播種監督者の農事試験技師・技手も加わっている。播種の後であるが午後５時、豊穣祈願祭が現地で行われた。

大祓式・抜穂式

お田植式をはさんで祓式と播種式と対をなすのが「大祓式」と抜穂式」である。

斎田にお田植された稲は順調に育ち刈り入れを待つばかりになった。稲刈りと収穫にあたる大祓の儀と抜穂式が営まれた。

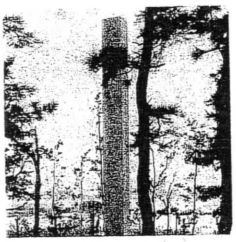
大祓式は大正４年９月１９日、抜穂式は翌９月２０日である。

大祓式

大祓式は「河原御祓」と同趣旨であることから清浄さを示す白砂青松の景色より矢作川の美合橋上流大聖寺河原で営まれた。

堤防より磧に至って白砂を布き、幔を張り設営され祓所で挙行された。大祓の詞奏とともに勅使北郷掌典のもとで進められた式典は、耕作者６名が漕ぎ進め大麻と贖物を水中に投じる所作をもって祓の儀を終っている。その時の文言が———「過ち犯せる種々の罪と穢れを根の国底つ根に」———というのである

この日の参観者は３万人余、警視・警部補指揮のもとに警戒警護の任に当たった警察官は６０余名に及ぶと記録されている。



大正8年春建立の
大祓ノ儀記念碑（建立当時）

勅使「北郷久政」氏が安城駅に到着され馬車で式場へ

大聖寺河原での大祓の儀

抜穂式

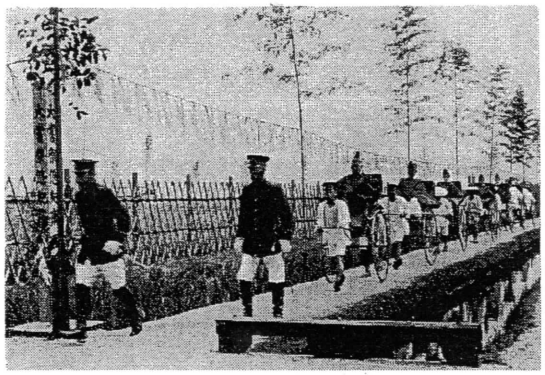
抜穂の式は勅使北郷掌典により執行された。斎場の中央に設けられた神殿の右に神饌舎、左に稲實殿が設営されていた。

———斎田は穣々として秋風は穏やかに吹き渡り、黄金の穂波豊かになびき、防風の設備は隈なく撤去されて大礼係の手により取り換えられた新しい斎竹・注手連縄は清き朝の風にゆらいだ———とある情景のもとで午前１０時から営まれた。

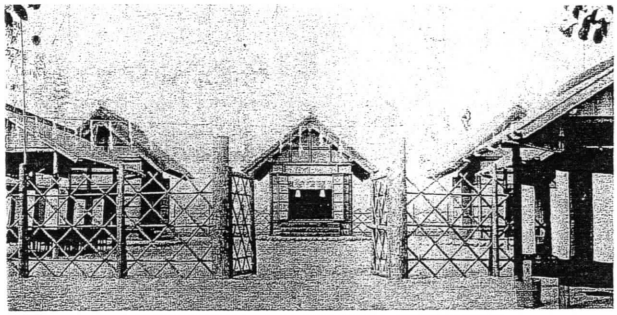
知事、県参列員及び六ッ美村長以下幄舎に参入して儀に入る。降神の詞が奏せられて神事に入り、抜穂使は抜穂を地方長官に命じ長官は太田主早川定之助に伝える。

早川定之助は雑色１０名を率いて斎田に向う。雑色１名とともに１号田に入り他の３名は２・３・４号田に進み一斉に鎌をもって稲穂を刈った。稲の長さ１尺５寸、各組とも刈り取ったものを１束として４束を三宝に乗せて地方長官に示した。長官は抜穂使とともに、点検を受け、その後太田主は抜穂を稲實殿に納め拝礼をもって抜穂の儀は終った。

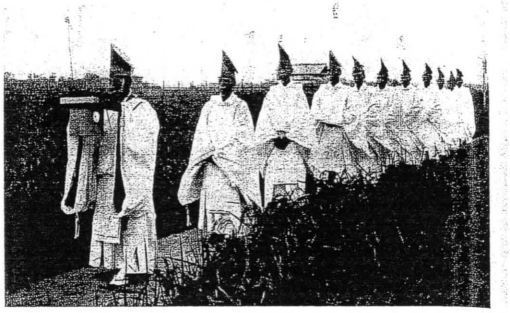
式後、知事は挨拶の中で「愛知県全体国旗を掲げてこの抜穂式を祝している次第」と述べている、県下一斉に国旗の掲揚をもって祝意を表わした。



抜穂式に向かう勅使の北郷久政



正面「神饌殿」、左に「稲實殿」、右に「神殿」



勅使の命令で刈り取り、稲實殿に向かう大田主早川定之助氏と10人の雑色

この日六ッ美村は早朝より拝観人で埋められ、西尾鉄道は数多くの無蓋列車を直結して臨時列車を増発したが乗客は窓にあふれるばかりでその雑踏はお田植まつりに譲らなかったといわれる。

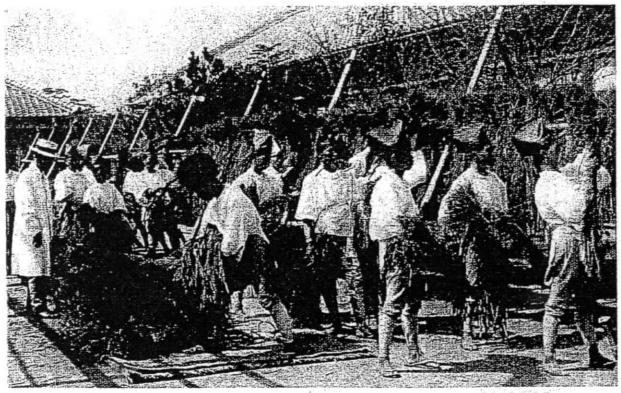
大祓式・抜穂式ともに盛儀であり、やがて御神米は宮内省に供納された。

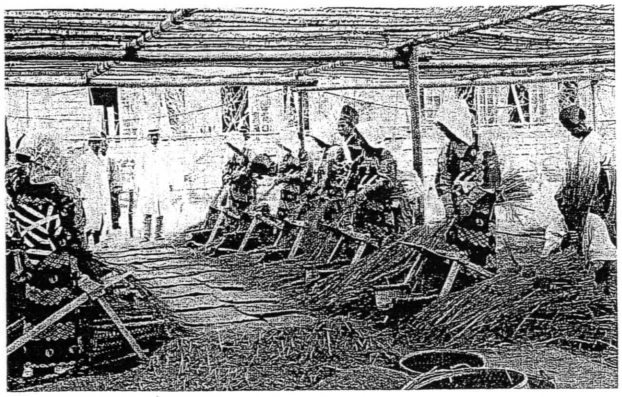
大祓・抜穂式後の経営管理

○稲　刈　　大正４年９月２５～２６日

稲刈りをする奉耕者　男25名、女16名が従事

○脱　穀　　９月２９～３０日

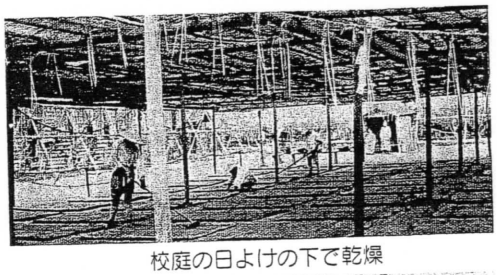




六ツ美第三尋常小学校（現南部小学校）校庭で乾燥し、脱穀（稲抜き）をした

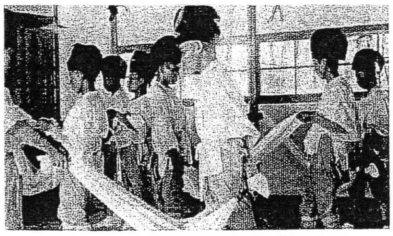
○ 乾　燥　　１０月１～３日　　南部小学校

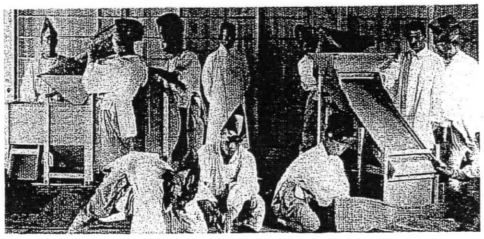
火力乾燥装置


校庭の日よけの下で乾燥

○ 選　米　　１０月３～４日

選米（一粒づつピンセットで選米した）


精米後米を布袋に入れ磨いた


籾摺り唐箕選（籾の選別）

斎田米の供納

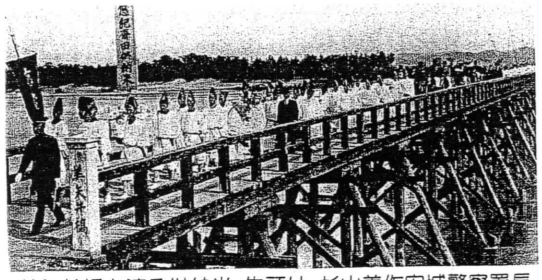
１９１５（大正４）年１０月１６日、京都御所での斎田供納式に先立ち供納米の点検は10月15日に八幡社で行われた。

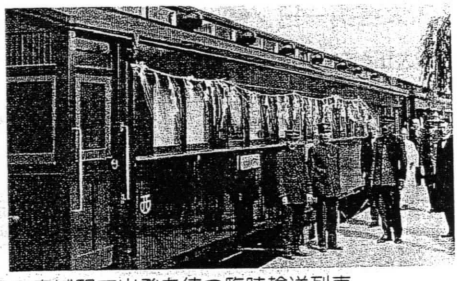
保管されていた供納米は知事の「点検の式」を受け、その後「悠紀斎田供納米」と大書された幟の下、美矢井橋を渡って安城役場に向った。

従うのは浄衣に烏帽子姿の唐櫃の担い手をはじめ羽織袴に菅笠姿の斎田関係者・六ッ美青年会員・在郷軍人会員・小学生ら約１５０人である。

安城駅から京都駅の供納米輸送車には知事・理事官・郡長・警視・村長・奉舁者２０名が同乗していた。

安城駅に向け八幡社を出発する供納米


美矢井橋を渡る供納米、先頭は、杉山善作安城警察署長


供納米を積み込み安城駅で出発を待つ臨時輸送列車

京都駅に到着の一行は京都府知事等の出迎えを受け隊伍を整えて京都御所の清所門に向う。皇宮内の天張奉安所に入った一行は供納米の唐櫃を置いて時を待つ。

京都御所清所門から入る供納米

京都御所での式典

その後県は愛知県事知事名をもって供納書を提出する。　(宮内大臣男爵波多野敬直宛)

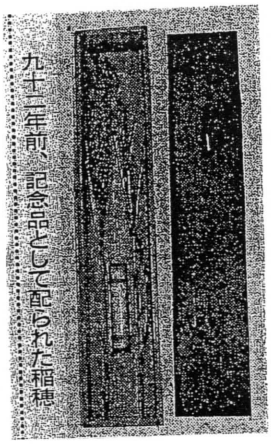
白米壱石　右大正３年２月５日区内大臣官房文書課官発第２７号令達及び大勝年５月１日宮内大臣官房文書課発３２５５号御通牒に依り愛知県碧海郡六ッ美村大字中嶋早川定之助より本日納付為致候也

資料　　斎田の耕種

「斎田に栽培すべき水稲品種の選択については慎重審議の結果、萬歳種を以ってすることなり。之が種子は県立農事試験場に於いて斎田供用の目的をもって純粋なる系統のものを選び、場内の一部に特に１本植えとなし肥料その他耕種管理に精細なる注意を払い、耕種せしものなり」

籾は撰種・浸種・施肥・と慎重に扱われるが播種の稲穂が偶然にも後年、町内で発見され９２年後に発芽している。

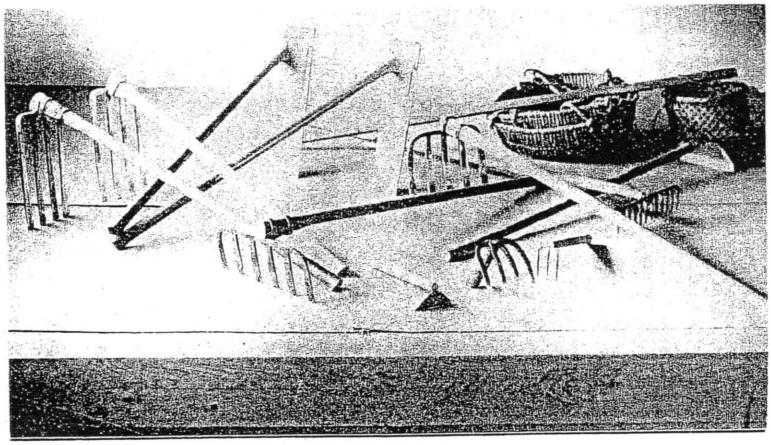
平成１８年、町内の合歓木町ニ村春夫氏は自宅を改装するが、その際に２階物置きから大正４年の大嘗祭の記念品を収納した木箱を発見するが、その中に稲穂２本が入っていた。
「保存状態がいいので芽が出る」と信じた氏は義兄に依頼して４月２日に１２８粒を播種、５日に発芽の種は６月２日に田植をされ、９月１５日に刈り入れられた。その籾は翌年に播種され平成１９年のお田植まつりに供される。１部は提携友好の主基斎田にも送られ、彼の地でのお田植まつりにも使われるようになった。



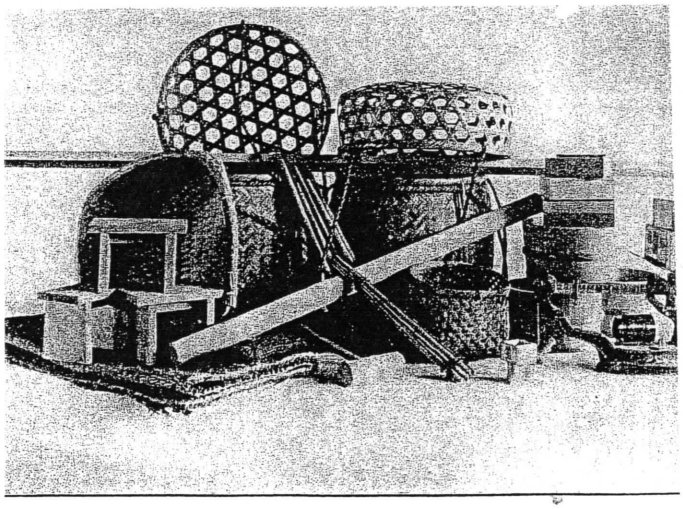
九十二年前、記念品として配られた稲穂

耕作用の農具

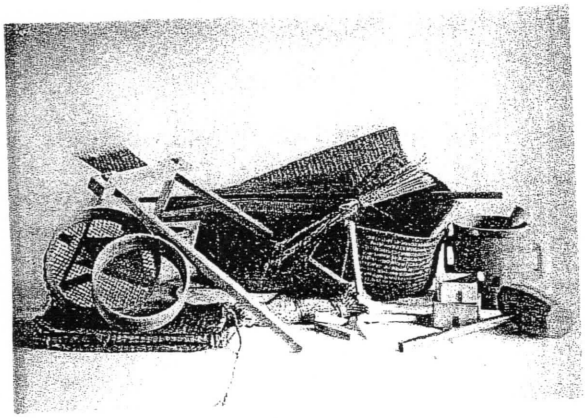
農具の種類と調整は農事試験場の調査に基き、その成績によって適当なものが採用されているが、おおむねこの地方慣用のものが多い。



具農用田本



具農用代苗



大嘗祭悠紀斎田の儀式一覧

番号	悠紀斎田の儀式等	年月日	時間	場所（当時の名称）
1	斎田決定示達式	大正３年３月７日	午前１０時３０分	愛知県庁知事室
2	斎田決定奉報祭	大正３年３月１１日		八幡社
3	故「鶴田勝蔵」翁霊前報告祭	大正３年４月１日		八幡社
	■ 大正３年４月１１日明治天皇お妃「昭憲皇太后」が崩御され登極令第１８条により大嘗祭は１年延期となる			
4	大嘗祭悠紀斎田祓式	大正４年４月２２日	午前１０時３０分	悠紀斎田
5	斎田鍬入れ式	大正４年４月２２日	午前１２時	悠紀斎田
6	播種式	大正４年４月２３日	午前６時	悠紀斎田
7	水口祭	大正４年４月２３日	午前９時	悠紀斎田
8	悠紀斎田御田植祭	大正４年６月５日	午前１０時	悠紀斎田
9	御田植祭祝賀会	大正４年６月５日	御田植祭終了後	六ツ美第三尋常高等小学校校庭
10	御田植終了奉告祭と豊穣祈念祭	大正４年６月７日	４号田御田植終了後	悠紀斎田
11	抜穂式斎場地鎮祭	大正４年８月１５日	午前８時	悠紀斎田斎場予定地
12	抜穂前一日大祓の儀	大正４年９月１９日	午後３時	矢作川大聖寺磧
13	悠紀斎田抜穂式	大正４年９月２０日	午前１０時	悠紀斎田斎場
14	供納米点検式	大正４年１０月１５日	午後	八幡社
15	斎田米供納式	大正４年１０月１６日	午後３時	京都御所
16	新穀供納祝賀記念式	大正４年１０月２１日	正午	愛知県商品陳列館
17	大嘗祭	大正４年１１月１４日		大嘗宮（仙洞御所）
	悠紀殿供饌の儀	大正４年１１月１４日	午後７時	（大嘗宮悠紀殿）
	主基殿供饌の儀	大正４年１１月１５日	午前１時３０分	（大嘗宮主基殿）
18	大饗第一日の儀	大正４年１１月１６日	正午	名古屋市鶴舞公園
19	御大礼愛知県奉祝会祝賀式	大正４年１１月１７日	正午	名古屋市鶴舞公園
20	悠紀斎田奉賛会解散式	大正４年１２月１１日	午後１時３０分	碧海郡役所
21	御下賜金品伝達式	大正５年１月６日		愛知県庁知事室
22	御下賜金伝達式	大正５年３月３１日		六ツ美第三尋常高等小学校

悠紀斎田を伝える「悠紀斎田播種ノ図」

松村松僊　　（本名　松村民三）

○明治１０年７月２３日　　長州国「萩」で出生

○早川龍介の請いをいれ来中嶋

○明治３８年１２月１５日、牧野彦太郎の次女「こと」様と結婚。
　中島の住人となる

大正４年、県知事より展覧に供するよう一幅の絵の依頼がある。一身の光栄、一門の誉れとして天稟の才を発揮して取り組む。

天覧ノ光榮ヲ得タル大嘗祭「悠紀斎田播種ノ圖」

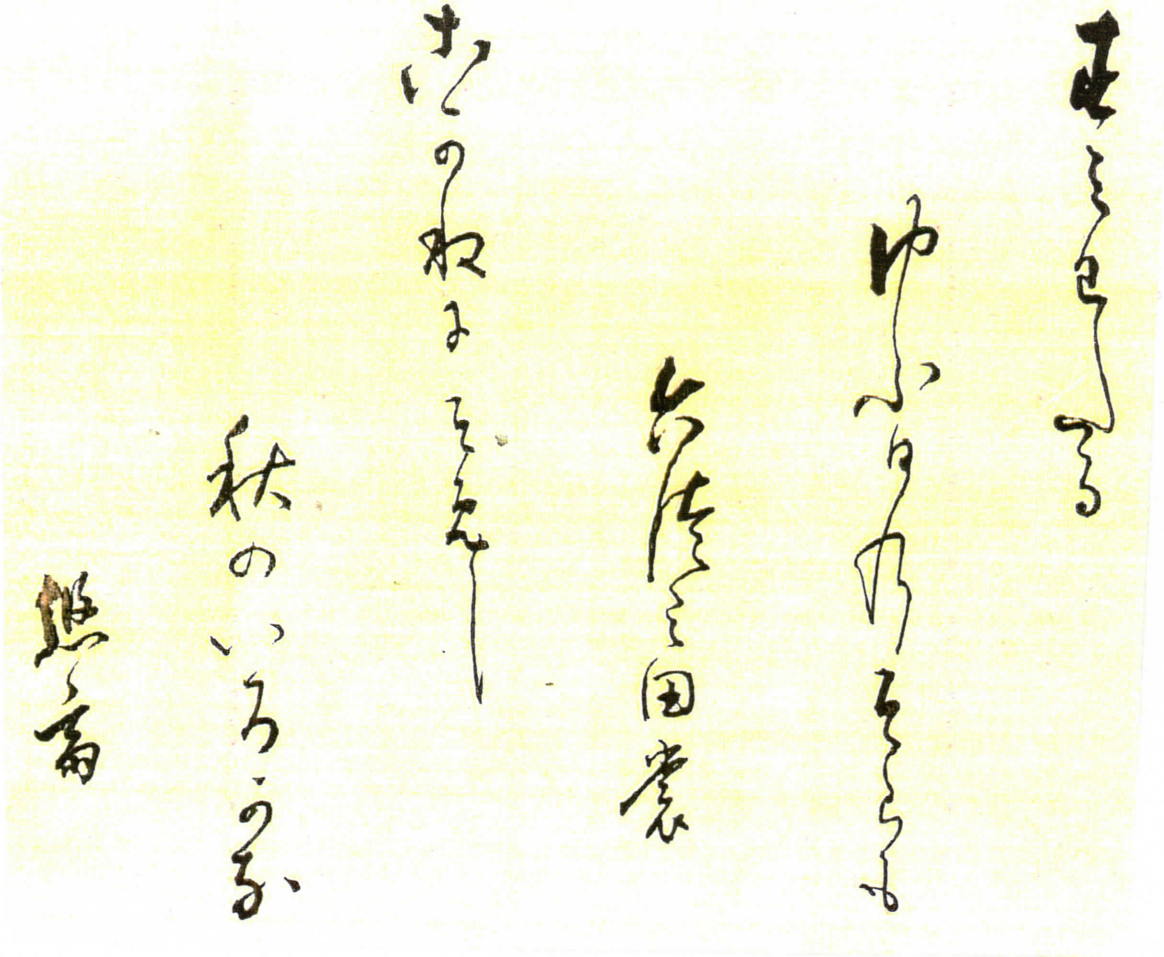
（悠紀斎田記念絵ハガキより）

松村櫻雨君寫悠紀齋田之狀輯
爲畫帖求序於余閲之齋田
之光景宛然如見或播種或植田或
捕虫或芟草千態萬狀悉在眸
中恰如臨其地而觀其事真好
記念物也後之觀之者感奮激
勵以努農事乎其益世蓋非鮮少
也余奚得不喜而序之

大正四年十月

悠紀地方長官
法学博士　松井茂

悠紀地方長官の感狀



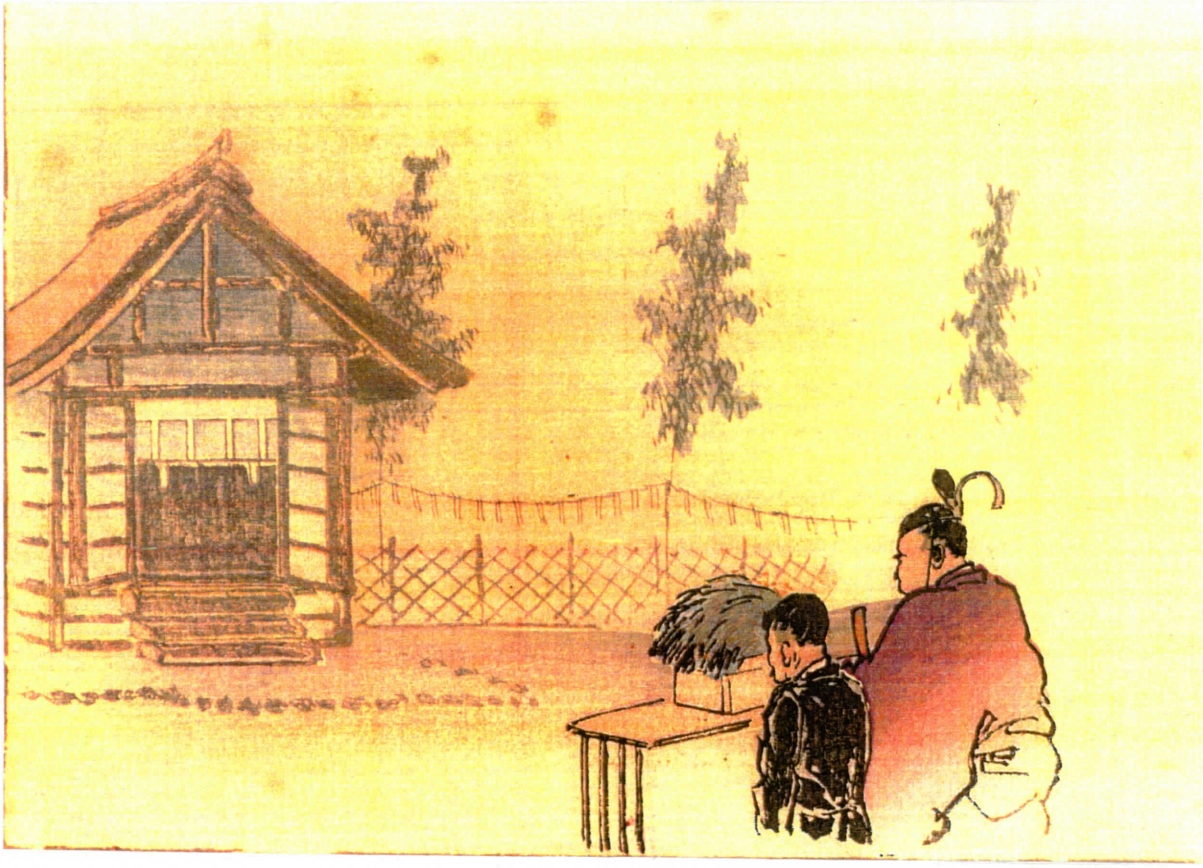
松村櫻雨の歌

田植

田植女欣舞

清祓式

稲刈



大聖寺磧大祓

抜穂式勅使下向

斎田の維持管理と経費・予算

斎田の点定がなされた頃、維持管理や経費の負担についていろいろな論議がなされている。

①斎田の経営は県の事業か、所有者の事業か、　②経営の主体者

③経費の負担　④維持管理の責任

いろいろな議論を経て「負担は県・郡・村及び所有者の共励によって補うべきだある」という結論に落ち着き、悠紀斎田奉賛会が組織され県知事が会長に推戴された。

会長のもと八幡社の社務所に事務所が置かれ「庶務部」「式典部」「警備部」「接待部」が設けられ事務を分掌した。

①出納に関する事項　②調度に関する事項　③人夫に関する事項等については事務部が分担したが、そこで扱われたのが経費・予算である。

1．　斎田に関する県予算

科　目	県郡村所有者合計額	県	郡	村	所有者
事務費	1，729円520	964円520	200円000	54円000	25円000
建築費	1，435・000	565・000	600・000	150・000	120・000
作業費	1，525・000	898・000			627・000
式典費	1，961・520	1，335・020	592・500		34・000
警備費	400・000			400・000	
道路修繕費	200・000			200・000	
供納費	525・000	525・000			
気象観測費	26・000	26・000			
図書印刷費	2，146・000	1，946・000	200・000		
予備費	554・000	300・000	254・000		
合　計	10，522・040	6，559・540	1，846・500	1，290・000	806・000

2．　奉賛会の経費予算

収　入

科　目	予算額
第1款　補助金	5，739・000
1県費補助	2，200・000
2郡費補助	2，000・000
3村費補助	1，500・000
第2款　雑収入	39・000
1不用品払代	39・000
合　計	5，739・000

※予算額の付記は省略

支　出

科　目	予算額
第1款 事務所費	1，205・500
第2款 標識費	33・000
第3款 建設物費	810・000
第4款 被服費	403・000
第5款 式典費	1，448・000
第6款 接待費	926・000
第7款 警備費	413・500
第8款 予備費	500・500
合　計	5，739・000

※予算額の付記は省略

悠紀斎田奉賛会役員記念写真

大正４年５月下旬頃と思われる。

悠紀斎田奉賛会役員

事務員　鳥居　憲二

警備部　青年会幹事　太田　登喜次

庶務部　第一尋常小学校長　長坂　松二

警備部　青年会幹事　山崎　康一

顧問　庶務部長　碧海郡選出　衆議院議員　石川　種吉

式典部　村会議員　早川　龍介

式典部　斎田委員　鵜野　卯三郎

顧問　碧海郡会議長　近藤又左衛門

警備部　村会議員　二村　久五郎

接待部　村会議員　杉浦　藤助

会長　碧海郡長　井深　基

庶務部　六ツ美村助役　太田　虎吉

接待部長　六ツ美村　斎田委員長　野々山卯三郎

庶務部　第三尋常小学校長　村井　猪作

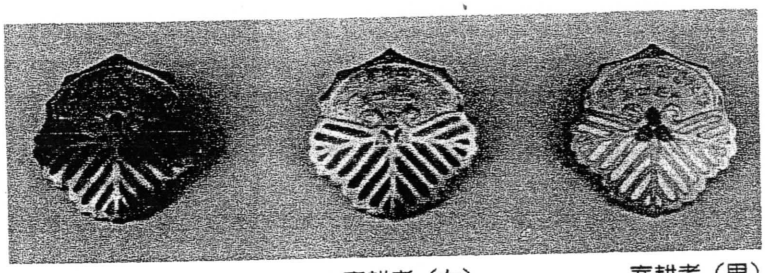
式典部長　六ツ美村農会長　高木　傳八

会計部長　碧海郡役所書記　角岡　興吉

警備部長　在郷軍人分会長　山本　幾太郎

庶務部　第二尋常小学校長　稲垣　秀三郎

役員、奉耕者に徽章が交付された。

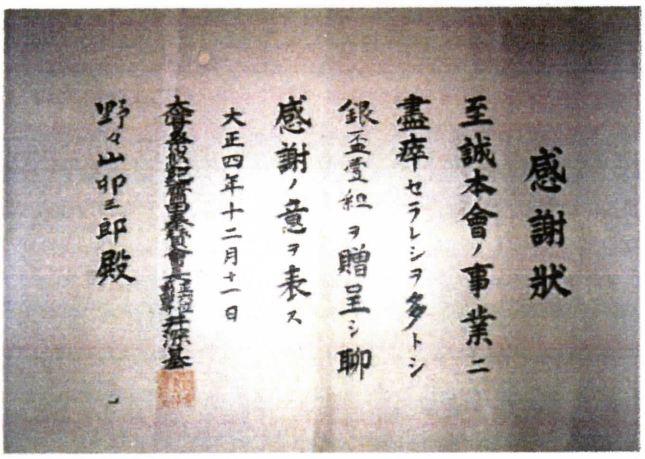


役員徽章　　奉耕者（女）　　奉耕者（男）

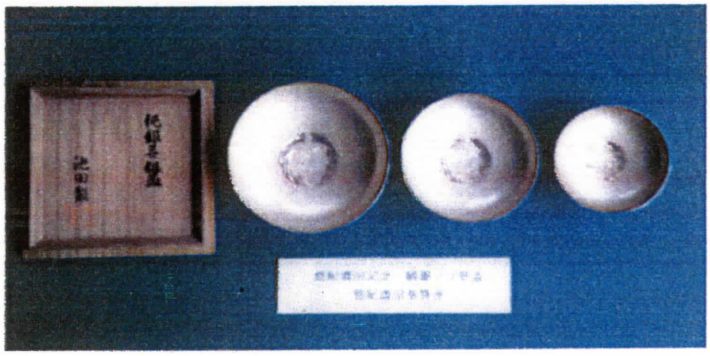
悠紀斎田奉賛会解散式・御下賜金品伝達式・その他（高札、役員章、斎田事務所公印）

1．悠紀斎田奉賛会解散式

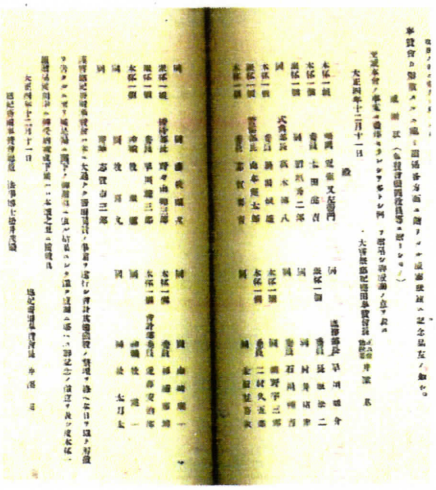
大正４年１２月１１日　午後１時３０分　　場所　碧海郡役所



←
感謝状

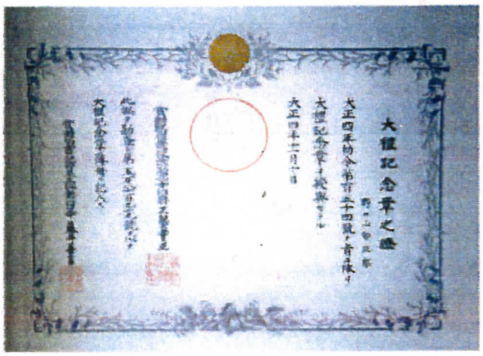


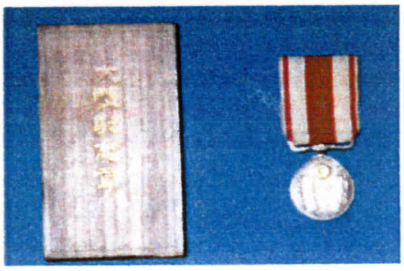
→
銀杯一組



←
悠紀斎田斎田奉賛会解散式に、25名の役員に感謝状と記念品を贈った。
（悠紀斎田記録４２６頁）

参　考　大正４年１１月１０日悠紀斎田功績者に対して大禮記念章が授与された。





斎田事務の終了

京都御所への供納米の納入をもって斎田儀式の大方は終了。年末には斎田地の竹矢来は撤去され、植えられていた榊は斎田所有者と農事試験場に移され記念樹となった。斎田の会計処理や事務処理も終り、悠紀斎田奉賛会は解散となった。（大正４年１２月１１日）

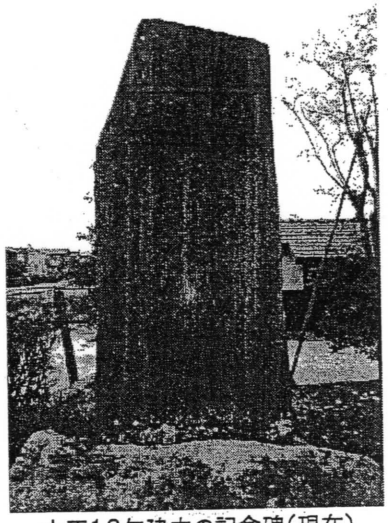
１２月１８日、宮内大臣より斎田所有者早川定之助に———御紋附銀盃１組・金壱千五百圓———の下賜があった。

そして供納用米として大嘗祭に供された精米の残りは農事試験場あるいは農業学校に分配された。

翌大正５年、愛知県議会は斎田跡地買収案を審議し満場一致をもって可決している。

斎田跡２反歩・斎田跡地４反歩を県で買い上げ、斎田点定の記念とし、水稲栽培・水稲品種改良に役立てるというのである。

「悠紀斎田跡」という碑文をもつ記念碑が斎田地に建てられるが、斎田事務の終了にあたり県知事は次のような挨拶を送って県民一般に謝意を表わしている。



大正13年建立の記念碑（現在）

序

本縣曩ニ悠紀ノ地方ニ勅定セラレ嘉穀奉獻ノ榮ヲ擔フ。コレ縣民ノ齊シク欣仰措ク能ハサリシトコロナリ。尋テ繒服其他大嘗祭御用品供納ノ大命ニ接スルヤ、懽喜已ム能ハス、官民一致、忠愛ノ情ヲ竭シテ齋戒沐浴、謹ンテ稼穡奉仕ニ力メ獻芹ノ誠ヲ輸セリ。

今ヤ殘務ノ整理略其緒ニ就クニ及ヒ乃チ職トシテ事ニ從ヘル產業課長理事官原口晃ヲシテ備サニ其顚末ヲ輯錄セシメ、一ハ以テ此榮譽ヲ永遠ニ記念シ、一ハ以テ終始指導ノ任ニ當ラレタル當局有司竝ニ後援助力ヲ惜マサリシ縣民一般ニ對スル報告ニ代ヘントス。

今ヤ稿成リ將ニ梓ニ上セントスルニ臨ミ一言ヲ卷頭ニ序スト云爾。

大正五年二月

悠紀地方長官愛知縣知事法學博士　松井　茂

六ッ美悠紀斎田の勅定にあたり農業・治水の先駆者として鶴田勝蔵翁、お田植まつりの主宰・献穀・供納の功労者として早川龍介翁については前述したが、ここでは悠紀斎田奉賛会の役員としてお田植まつりを裏から支えた野々山卯三郎についてふれてみたい。

野々山卯三郎

野々山卯三郎（１８６６～１９２９）

―――占部から六ッ美へと時代を移した野々山卯三郎―――

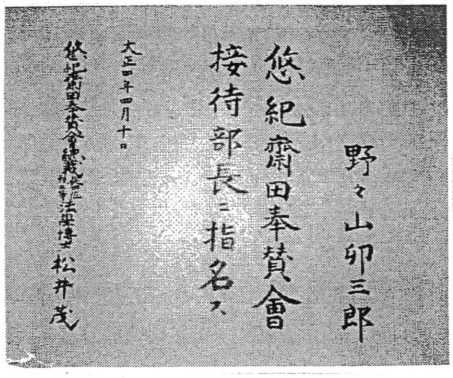
野々山卯三郎翁は１８６６（慶応２）年、占部村で出生している。正名村や定国村、中村、国正村、坂左右村、野畑村など７か村が合してなった占部村で若くして役職を歴任した。

明治１７年　２月	中村総代	１７歳
２５年１０月	占部村村会議員	２６歳
２８年　８月	占部村収入役	２８歳
３０年　３月	占部村助役	３０歳
３２年　８月	占部村長	３２歳
３９年	碧海郡占部村、糟海村、中島村、阿乎村など合併して六ッ美村となる	
３９年　８月	六ッ美村会議員	３９歳

村会議員になってからは碧海郡会議員（明治４０年９月　４１歳）、碧海郡会副議長（明治４３年１月　４３歳）にも就任している。その間、４１年４月には勲７等青色桐葉章を下賜されている。

大正４年刊の「碧海郡名士人録」には、卯三郎が「徹頭徹尾、温和と実行を大切にし、農事に熱心であった」と記録されている。そのことが多くの役職を兼ねつつ、耕地整理の視察や農会評議員・安藤川の改修などにかかわった卯三郎の評価を高めたものと認められる。

１９１５（大正４）年６月５日、お田植まつりが挙行される。前後して祓式（大正４年４月２０日）、播種（４月２３日）、大祓式（９月１９日）、抜穂式（９月２０日）と続くが、その動きの中で卯三郎は悠紀斎田奉賛会の「接待部長」の要職にあたり、お田植まつりの一連の活動を企画・運営している。



京都御所での供納米の献上の列

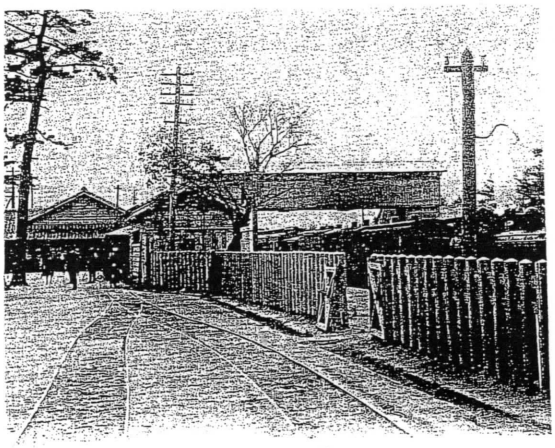
卯三郎らの辛苦の供納米は、やがて献上のため京都御所を訪れる。その献上の列にも奉賛会の解散式（大正４年１２月１１日）にも卯三郎は参加しお田植まつりとともに多くの式典・行事に参画している。

お田植まつり前後の交通事情

お田植式に参列した来賓は記録によると、英国農政学者ロバートソンスコット、金原明善など外人を含め７００余人、参観者は７万余人であったと伝える。

鉄道院は名古屋～岡崎間に３回、豊橋～岡崎間に２回の臨時列車を増発する。また、西尾線では車両不足のため無蓋貨車の臨時列車を運転したが、乗車不能者が続出したとある。あまりに多大な参観者の数に驚くが、いったい当時の交通事情はどうなったのだろうか。

東海道線と岡崎線


旧国鉄岡崎駅（大正時代）

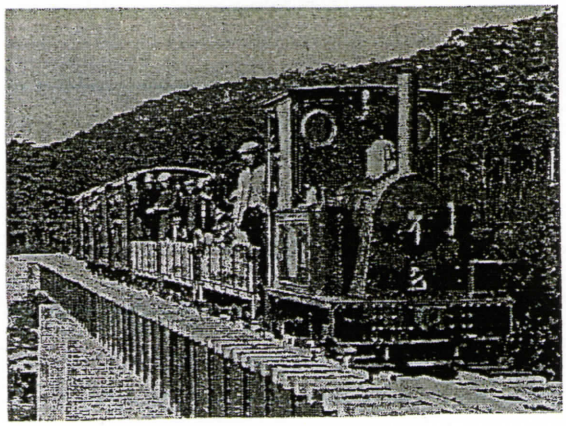
岡崎は宿場町の性格上、三河地方の各宿場町と結んで鉄道の忌避運動をしたという経緯をもつ。そのため、町から３．３Ｋｍも離れた羽根村に停車場ができるという由来をもつが、当時を伝える一文がある。

―――（略）狐狸鳴く松林を拓いて出現したバラック建ての岡崎停車場がこれだけの貨客を呑吐した姿は壮観だったに違いない（略）―――　（岡崎市史　近代編Ｐ２８５）

その岡崎駅も１９２１（大正１０）年に移転するが、前後して明治３１年には岡崎馬車鉄道（駅～殿橋）、４４年には西尾鉄道（岡崎～西尾）を拓いて発展し、そこには昔日の姿はない。

西尾軽便鉄道

西尾から岡崎を結ぶ西尾軽便鉄道



国鉄（現在のＪＲ）東海道線の開通当時は六ッ美・西尾間の交通の便は乗合馬車か徒歩であった。

「交通の便をよくし、地域を活性化する」という構想のもとで１９１０（明治４３）年、西尾軌道株式会社を設立され翌４４年には西尾駅と岡崎新駅間約１３．３Ｋｍを結んで鉄道が通じた。学区内では中島と占部に駅ができる。

開通当時、岡崎新駅と西尾を片道５０分で結び、１日２往復であった。

１９４１（昭和１６）年第２次世界大戦の勃発より利用者の激減があり名鉄本線と豊川海軍工廠の引き込み線となりその幕を閉じた。まことに営業期間は短命だった。

神社運営と記念史料の保管

斎田事務が終了しても地域には課題が残った。縁の大正天皇を奉賛する社の造営と記念史料館の建設である。

○八幡社と大正宮

村社八幡社は中島町上町５５に所在する。由緒は定かではないが、昌泰年間（８９８～９００）に創建されたといわれる。１９０９（明治２）年に神饌幣帛料の神社に指定されている。

その八幡社は斎田地が選定された当初から近隣の地であるという理由から神穀奉納事務所として斎田の儀式や式典に与かった経緯がある。

○斎田点定の奉告祭
○斎田奉賛会の事務所
○斎田祓式（４月２２日）、水口祭（２３日）の準備
○お田植式前の臨時祭
○ お田植終了後の豊穣祈願祭（6月１３日）
○献穀祭の取り入れ、精米等一切の行事

境内の一隅に大正宮がある。創建の由緒等はないが、神山榮氏の拝書になる石碑「鎮座記念碑」がある。

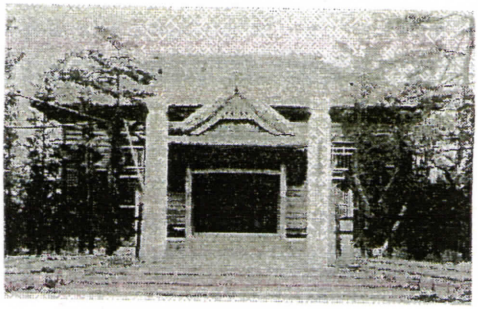
「(大正天皇) ———御在位僅カニ１４年ニシテ御崩御シ給ウ、村民奉悼哀慕ノ念久シクヤズ———」とあり、そのため「大正天皇ノ神霊奉斎ノ神殿ヲ村社八幡社ノ神域ニ奉建シ以ッテ無窮ノ聖徳ヲ常ニ仰ギ奉リ村民斎シク至誠ヲ捧ムトシ協力シテ斎田ニ奉仕シタル余栄ヲ永ク記念セムト欲ス」とあるところから明らかに大正の時代に悠紀斎田と大正天皇に関わる造営物であるということがいえる。

やがて早川龍介翁が率先し、県農林学校長や熱田神宮宮司らの後援するところとなって社地の取得・地鎮祭・鎮座の祭が行われ大正宮が造営された。

○　**斎田記念館と六ッ美民俗資料館**

献穀の光栄を記念し、後世に伝えんとして建設されたのに斎田記念館がある。

１９１９（大正８）年、斎田記念館は六ッ美村長の発案により、村会一致の賛成を得て青野字本郷の地に建築された。館は洋風であり、斎田当時の苗代・収穫・調整の用具や標本記録の記念物を蒐集・陳列した。この記念館もやがて老朽化し、役場の移転もあって解体され１９８７（昭和６２）年に六ッ美民俗資料館へと引き継がれている。



旧斎田記念館(大正8年)

史料　　六ッ美民俗資料館の主な収蔵・展示物

苗代用具　枡(大小)　撰種桶　手桶　手小桶　施肥用桶　たらい　苗代杓棒　採虫器　蛙よけ　害虫予察灯　腰掛　その他

収穫用具　鎌　叺　稲扱　ふるい　扇　籾すり臼　米かき　籾担ぎ畚　手返　萬石　千石ふるい　その他

調整用具　電動機　変圧器　配電盤　敷莚　米入箱(大小)　薄莚　米すくい　撰米用米袋　盆(大小)　皿当　杓子　供納米唐櫃　その他

農　　具　平鍬　備中鍬　草かき鎌　雁爪(大小)　田植縄　レーキ　鍬掛　田植正木　太縄　莚袋　その他

標本記録　額入萬歳種標本　新聞抜粋集　悠紀斎田記録写真帳　御即位写真帳　悠紀斎田記録　主基斎田記録　萬歳旗箱入　愛知県記録帳　大礼使御下賜品燭台　大礼使御用礼祭式用具　その他

その後の「お田植まつり」

お田植式とお田植まつりなどを終えた後、悠紀斎田はどうなっただろうか。

しばらくして日本の時局は新しい局面を迎える

斎田の点定、お田植式といったころ日本は中国に対し「対支１か条要求」を出している。

１９１５（大正４）年

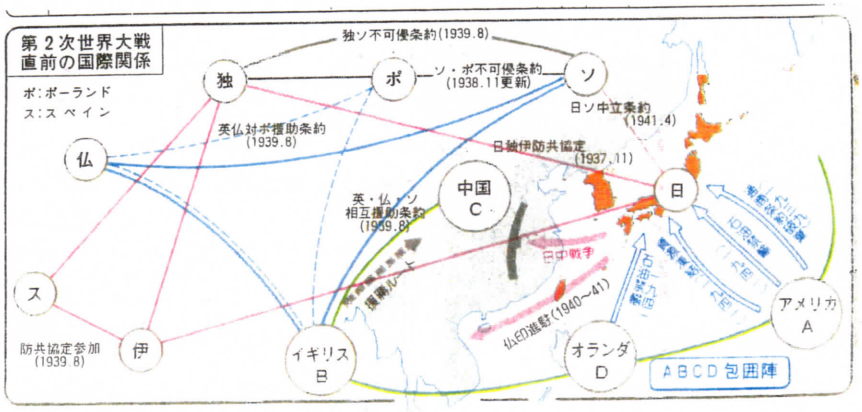
１．山東省にもっている中国の利権を日本に譲る

１．大連・旅順の租借期限と南満州の期限延長

１．蒙古における鉱山採掘の日本への許可

（以下略）

等々である。対支関係は悪化し両国衝突の危険は増した。１９３１（昭和６）年には満州事変が起り、１９３７（昭和１２）年には北東郊外で日中両軍の衝突があり日中戦争が始まった。



これを機に世界は日本を含めて全面戦争に発展する。日・独・伊の三国同盟と米・仏・蘭のＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ同盟の争う戦火第２次世界大戦である。（１９３９～１９４５）

日本は国家総動員法・学徒動員・女子挺身勤労令など国を挙げて戦いを遂行するが、沖縄の玉砕・広島への原爆投下などもあってイタリア・ドイツに次いでポツダム宣言を受諾するをえなかった。

こうした時局下にあってはお田植まつりなど思いもつかぬものである。それでも「お田植まつり」として献穀当時の精神を後世に伝えようとする心構えと営みはあった。

昭和４年１１月２５日、この地に高松宮殿下が訪問された際にお田植おどりを八幡社で披露している。

しかし戦局が悪化した第２次世界大戦から戦後にかけてはお田植まつりは一時中断し、その期間は六ッ美南部小学校教員の杉山信太郎が学校実習田として活用し保存・管理に努めているという状態であった。

昭和４１年お田植まつり（田植歌・踊り・用具・装束）が岡崎市無形民俗文化財に指定されるが以後六ッ美地区の住民の理解と協力のもとで記念行事は復活し開催されるようになった。

高松宮殿下訪問時のお田植え踊り(昭和4年)

岡崎の略年譜

１９１４（大正３）年～２０１３（平成２５）年

時代	暦	で　き　ご　と
大正	１９１４（大正　３）年	大嘗祭の斎田勅定
	１９１５（大正　４）	悠紀斎田お田植式
	１９１６（大正　５）	岡崎市市制施行（人口３７,６３９人　戸数８,４０１戸）
	１９２３（大正１２）	関東大震災（９月１日）
	１８２６（大正１５）	大正天皇御崩御、昭和と改元
昭和	１９３６（昭和１１）	岡崎市制２０周年記念行事（人口８０,７２２人　戸数１７,１３２戸）
	１９４１（昭和１６）	日本、アメリカ・イギルスと交戦状態（太平洋戦争）
	１９４５（昭和２０）	玉音放送、日本の敗戦（８月１５日）
		アメリカＢ２９の編隊、岡崎を空襲（７月１９日）
		三河地震（１月１３日、マグニチュード７．１）
	１９４７（昭和２２）	教育基本法、学校教育法の施行６・３・３・４の学校体制を確立
	１９５８（昭和３３）	六ッ美村町制施行
	１９５９（昭和３４）	伊勢湾台風襲う。（中心気圧９２９．５ミリバール）
	１９６２（昭和３７）	岡崎市へ碧海郡六ッ美村が合併する（市域２２６ｋ㎡）
	１９６６（昭和４１）	悠紀斎田の田植・踊り等が岡崎市無形民俗文化財に指定される
	１９８９（昭和６４）	昭和天皇御崩御、平成と改元
		岡崎市人口３０万人達成（４月８日　全国６６番目）
平成	１９９３（平成　５）	新編岡崎市史全２０巻完成
	１９９５（平成　７）	悠紀斎田８０周年記念式典、香川県主基斎田と交流提携書を交わす
	２００３（平成１５）	岡崎市、中核都市に移行、人口３５万人に達する（９月）
	２００５（平成１７）	岡崎市・額田町合併協定調印式（２月）
	２００６（平成１８）	市制施行９０周年記念式典開催
	２００８（平成２０）	時間雨量１４６mmの集中豪雨、岡崎市を襲う。
		リーマン・ブラザーズの経営破綻により市財政苦境
	２０１０（平成２２）	「悠紀斎田整備基本構想」が発表される
	２０１２（平成２４）	地域交流センター六ッ美分館「悠紀の里」第１期工事始まる
	２０１３（平成２５）	悠紀の里第２期建設工事始まる

悠紀斎田８０周年記念と主基斎田との提携

六ッ美村が岡崎市と合併したころ（昭和３７年１０月１５日）、悠紀斎田と四国の香川県主基斎田との交流提携の気運が高まった。ともに大正４年の大嘗祭には点定・勅定され、両者とも８０周年を迎えようとしていた。

この機会に、夢とロマンのある生き甲斐のある地域づくりをめざし連携して産業・教育・文化・スポーツ・観光等の交流を図ろうという構想である。

交流・提携の記念式典は６月２４日、香川県高松市で開催された。

主基斎田との交流・提携

地元香川県からは県知事、綾上町長らが出席し、悠紀斎田側からは８０周年記念事業実行委員長や悠紀斎田保存会長、県会議員、市会議員等も同席して盛儀であった。

６月２５日の交流式典には提携書調印や交換や記念植樹式典・交流提携協定書の調印も行われた。

交流提携協定書

岡崎市六ッ美地区と香川県綾上町は、大正度大嘗祭の悠紀及び主基地方の斎田に選定され、献穀にかかる諸行事が厳粛に取り行われてから早くも８０年目を迎えた。

この歴史的由緒を機縁として、ふるさと意識の高揚と夢とロマンにあふれる生きがいのある地域づくりを目指し、産業・教育・文化・スポーツ及び観光など多方面にわたる交流を深め、住民福祉の向上と相互の発展を願い、意義深い斎田選定８０周年記念に際し、交流の提携についての合意を確認するため、この協定書に署名し、その証とする。

平成７年６月４日

悠紀斎田保存会会長　榊木　猛

主基斎田保存会会長　仲西秀信

この式典に盛りこまれたお田植まつりの和牛による「代かき式」は古式豊かな伝統色にあふれたものであり後に綾上町の無形民俗文化財となっている。

斎田選定80周年を迎えた綾上町の主基斎田。「お田植え祭り」では古式ゆかしい田植え風景が再現された＝綾上町山田

悠紀斎田８０周年記念式典

１９９５（平成７年６月４日）、六ッ美悠紀斎田８０周年の記念式典が悠紀斎田を主会場として開催された。

記念事業実行委員長中野千早氏に主宰された。式典には香川県知事、愛知県知事、岡崎市長、各級議会議員、主基・悠紀斎田保存会長等多くの要職者も列席し誠に盛会であった。

開会のことばに始まる式典は、神事に則り式次第ににによって進められた。通常の式にならい格別の式ではないが、大正宮から斎田の圃場までを踊り歩く「練りこみ」や式終了後のアトラクションの「奉納太鼓」「おどり」「七福神」などは参観者の興趣をそそるものであった。

資料

平成７年度（３０周年）悠紀斎田保存会予算（案）

収入の部

項　目	金　額	説　明
繰越金	６５，５４０円	前年度繰越金
負担金	２，９６１，５００	学区協力金 北部学区　９７６，０００円 中部学区　５０６，０００ 南部学区　１，０５９，５００ 保存会会費　２６０，０００ 反省会会費　１５０，０００
助成金	３，９９３，０００	六ッ美地区総代会助成金　７００，０００ 岡崎市観光協会助成金　１３６，０００ 岡崎市六ッ美商工会助成金　３００，０００ 岡崎市助成金（衣裳代含む）　２，１５７，０００ 愛知県助成金　２００，０００
諸収入	１８１，０００	記念奈玉串料　１００，０００ 玄米売払代金　８０，０００ 利　息　１，０００
合　計	７，１９１，０４０	

支出の部

項	目	金　額	説　明
会議費	会　議	１５０，０００円	理事会・保存会役員会・保存会会議
事務費	郵便切手 手提紙袋 封筒小 諸用紙類	１７９，３２０	通知用切手・資料記念品用 通知案内用・事務用
	供物、謝礼	７０，０００	神官謝礼（２名）・八幡社謝礼 学校謝礼（中・小）・神饌料
	記念品	６７４，７００	タオル・斎田最中（１０ヶ入り）
	外　垣	１０３，０００	門柱・小柱・竹・板
	直会費	２０５，０００	直会・ビール・ジュース・ウーロン茶 口取・紙コップ・紙ザラ・その他
	衣裳代	９８１，９５０	男子用衣裳・子供用衣裳・草履・足袋
事業費	衣裳洗濯料	３３３，７２０	女物一式・男物一式・子供一式
	太鼓皮張替	５０，０００	太鼓皮張替
	放送設備	７２，１００	放送設備借上（大正宮、斎田・直会）
	練習飲物	５５，０００	おどり練習・リハーサル・写真・小中学校
	記　録	１，０３０，０００	記念誌・ビデオ・写真
	宣伝費	７９８，２５０	ポスター・チラシ・自動車街宣・のぼり（小）祝砲３寸
	イベント	８２４，０００	大型テント・抽選会景品他
	主基斎田友好提携費	２９０，０００	食事・シンボル旗・記念植樹費
	斎田管理費 部　会	３８５，０００	機具借用代・人夫賃・肥料農薬代 斎田管理費・借地料・籾乾燥
助成費	助成費	３０，０００	保存会部会・運営部会・おどり部会助成
諸費	雑　費	５３９，０００	反省会費・雑費・会場使用料
予備費	予　備	４２０，０００	
計		７，１９０，０４０	

※説明欄の積算の明細に経費については省略